

平成 25 年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について

1 20周年記念講演会

オープニングコンサート、記念式典及び合同開講式、記念講演会を下記のとおり開催した。

(1) 開催日時

平成 25 年 4 月 21 日（日） 午後 2 時から午後 4 時 30 分

(2) 会場

宇都宮短期大学 長坂キャンパス 須賀友正記念ホール

(3) 参加者数

353名

(内訳)・20周年記念講演会受講者	163人
・専門講座受講者	130人
・招待者（関係者等）	60人

(4) 事業内容

ア オープニングコンサート

- ・ 学長挨拶 一宇都宮共和大学・宇都宮短期大学 学長 須賀 英之 氏
- ・ 宇都宮短期大学音楽科の学生等による演奏
(フルート独奏 2 曲, ピアノ連弾 2 曲, ソプラノ独唱 1 曲)

イ 記念式典及び合同開講式

- ・ 主催者挨拶 一宇都宮市民大学 学長 佐藤 栄一 (宇都宮市長)
- ・ 来賓挨拶 一宇都宮市議会議長 金子 和義 氏
- ・ 功労者表彰 一学長より功労者 (宇都宮市生涯学習コーディネーター 経験 10 年以上) 12 名の代表 1 名に感謝状の交付
- ・ 受講者証交付 一学長より専門講座の受講者代表 1 名へ交付

(7) 受講者の感想・意見

- ・ 20周年にふさわしい式典。コーディネーターの方のご苦勞に感謝します。
- ・ ピアノ、フルートの演奏は二十年も聞いていなかった。このような企画、ありがたく心が癒されました。
- ・ こういう機会でなければ、宇都宮市民大学のことも気になかったのですが、式典や記念講演会で市民の関心をひくことも大切と思いました。
- ・ 市民大学全体として、専門講座の位置づけを意識するためにも必要と考える。
- ・ 今回の式典、記念講演会の会場と宇短大生のコンサート、ウェルカム演奏会など、20周年記念にふさわしく良かった。
- ・ 市主催の大学であるから、市の歌を紹介したり会場で歌ったりしてアピールするとよい。

(イ) 評価 (別紙 1)

受講者のアンケートでは、半数が、「とても意義があり、よかった」と評価している一方で、「専門講座ごとの開催でよい」という意見が 1 割近くあった。

感想では、「心が癒された」や「音楽に感動した」、「20周年に相応しい内容であった」、「市民大学全体の位置づけを意識するためにも必要」という意見があり、意義のある内容であった。

また、「市民大学を知るきっかけとなった」と評価する意見もあったことから、当事業の目的でもある、市民大学の周知が図れたものと考察される。

ウ 記念講演会

(7) 実施内容

- ・ 講師 倉本 裕基 氏（作曲家・ピアニスト）
- ・ 演題 「ピアノ音楽の楽しみ」
- ・ 内容 ピアノ演奏を交えた講演会。ピアノが登場するクラシック及びポピュラー音楽について、さまざまな角度から楽しむためのヒントを分かりやすく説明。

(イ) 受講者の感想・意見

- ・ 年をとってもピアノの魅力にひかれ、自ら新しい夢を切り開きたいと思いました。
- ・ 音楽表現の多様性と現代ピアノの機能を熟知された上に、技能の深さ、表現の素晴らしさに感動しました。
- ・ 最高に楽しい講演会でもう一度聞きたい。
- ・ ピアノの名曲を沢山聞かせて頂いてとてもよかった。アレンジも自由自在、興味深くまた先生を呼んで下さい。ホールの音響はとても素晴らしい。
- ・ 終了時間を守ってもらいたい。途中退席者が多かった。

(ウ) 評価

受講者アンケートでは、「とても良かった」との意見が7割を越え、満足度の高い講座であった。

感想では、「演奏も、講義も大変充実した時間だった」や「音楽を分かりやすく解説してもらえて勉強になった」など、満足度の高い回答が多かった。

また、「専門講座にも生かせる内容であった」などのほか、「専門講座も楽しみになった」、「自ら新しい夢を切り開きたい」との意見もあり、受講者の学習意欲の高揚にもつながる内容であったと考察される。

2 専門講座

平成25年度前期は6講座を開催した。「20周年記念講演会」を全ての専門講座の第1回目として位置づけている。

(1) 講座数

6講座（それぞれ6回～8回 ※20周年記念講演会を除いた回数）

(2) 周知方法

広報うつのみや（平成25年3月号）、市ホームページ、パンフレット、チラシ、ラジオ（栃木放送）

(3) 開催期間

平成25年5月14日～7月8日（20周年記念講演会を除く）

(4) 受講者数等

受講者数304名、募集定員280名、応募者数326名

(5) 講座内容

別紙2のとおり

(6) 運営・講座の評価と課題

ア 運営に対する評価

4コース6講座ある中で「暮らしを彩る教養・文化コース」と「コミュニケーション学コース」の4講座は、定員を上回る申し込みがあり、2講座が定員に満たない状況であった。

「Ⅰ ふるさと地域学コース (No.1「宇都宮市での地震災害の歴史と防災」)」については、東日本大震災がまだ記憶に新しく防災への関心が高い時期で講座が実施でき、宇都宮市を中心とした自然環境や地形を学ぶことで、個別に地元ですべき防災対策について学習する内容を提供することができた。

「Ⅱ 今を読み解く現代社会コース (No.2「ミドル世代の心豊かな生活のために」宇都宮短期大学連携講座)」については、特に子育てや介護で忙しいミドル世代を対象とした講座であった。そのため、講座の実施時間帯を土曜日午前に設定したが、当初想定していた就労世代等の新規受講者の拡大には繋がらなかったために応募が少なかったと考察される。

「Ⅲ 暮らしを彩る教養・文化コース (No.3「俳句入門講座」、No.4「郷土に縁のある作家たち」、No.5「生活の中にある『なぜ』」)」については、知識・教養を高めるとともに、知的好奇心を満たす内容であったことから、いずれも定員を超える応募があったものと考察される。

「Ⅳ コミュニケーション学コース (No.6「古里宇都宮の伝統」)」については、祭りを通した人々のコミュニケーションをテーマに、地元の祭りについて学び館外学習で屋台等を見学し理解を深めるなど、文化・教養的要素を取り入れた内容でもあったことから、募集定員を大きく上回る応募があった。

こうしたことから、一定の応募者数を見込むには、講座のテーマ・内容や実施時間帯等を考慮し実施していく必要がある。全体をとおして、文化・教養の要素を取り入れることで応募が増加する傾向にあることから、コースの目的を踏まえた上で、市民の知的好奇心を刺激する講座テーマや学習内容を工夫していく必要がある。

また、当事業をきっかけとして、市生涯学習事業に興味関心を持てるよう、娯楽的要素を盛り込み、楽しみながら学べる手法などを検討し、「学ぶきっかけ」に繋がるような仕組みの構築が必要である。

イ 講座に対する評価

受講者同士がグループ化し、学習サークルを立ち上げた事例や、講座終了後に希望者を募り講師と地域でフィールドワークするといった自主学習に繋がった事例があるなど、当事業の大きな目的である、「学びをとおしたきっかけづくり」に結び付いている。

また、市民大学受講者が、生涯学習コーディネーターを希望し、研修に参加するといった事例も見受けられた。

講座の内容に対する受講者の満足度は、各講座とも高い状況がアンケートから見られる。⇒参考資料参照

平成 25 年度市民大学後期専門講座の実施について

1 合同開講式

専門講座受講者を対象に、合同開講式を開催する。

ア 日時 平成 25 年 10 月 24 日 (木) 午前 10 時～午前 10 時 20 分

イ 会場 宇都宮大学 峰キャンパス

2 公開講座

専門講座受講者及び一般市民を対象に、公開講座を開催する。

ア 日時 平成 25 年 10 月 24 日 (木) 午前 10 時 30 分～正午

イ 会場 宇都宮大学 峰キャンパス

ウ 内容 演題 「韓流ドラマが映し出す現代韓国社会と文化」
講師 宇都宮大学国際学部 非常勤講師 チェ・ボユン 氏

3 専門講座

生涯学習コーディネーターの企画による 4 講座 (No. 2～No. 5)、市内の 1 大学 (宇都宮大学) との連携による 1 講座 (No. 1)、事務局の企画による 1 講座 (No. 6) を実施する。

ア 開催期間 平成 25 年 10 月～12 月

イ 開催回数 7 回～9 回程度 (公開講座 1 回を含む)

【後期専門講座内容】

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間)
1	里山の今, そして未来 ～人と自然が折り合う空間の再発見～ 【宇都宮大学連携講座】	11 月～ (木曜日 午後)
2	仏像から宇都宮の歴史・文化を探る	10 月～ (木曜日 午前)
3	シニアの健康 ～笑いは人生 元気のみなもと～	10 月～ (火曜日 午前)
4	宇都宮の文化・工芸アーティストたち ～温もりを感じる, そこにもものづくりの繊細さが同居して～	10 月～ (月曜日 午前)
5	現代アート入門講座 ～アートを楽しみ, アートでまちを生き活きと!～	10 月～ (金曜日 午後)
6	宇都宮ゆかりの『小倉百人一首』から学ぶコミュニケーション ～今こそ詠みたい! 三十一文字のラブレター～ 【事務局企画講座】	11 月～ (金曜日 午前)

※ 講座の実施会場は、人材かがやきセンター研修室 (中央生涯学習センター 5 階)

※ 午前⇒10時から12時, 午後⇒2時から4時

平成 26 年度宇都宮市民大学の実施について

1 「うつのみや地域教育プラン」の推進に向けたこれまでの取組み（平成 22 年度～）

(1) 平成 24 年度事業における取組み

ア 生涯学習コーディネーターへの一本化（平成 22 年度～）

地域で活躍できる人材の育成と活用促進を図るため、「生涯学習ボランティア」と「生涯学習コーディネーター」を、「生涯学習コーディネーター」として一本化し、双方ともに市民大学専門講座の企画運営に参画できるようにした。

イ 講座企画運営選考委員会の実施（平成 22 年度～）

選考委員に外部の学識有識者を加えるなど委員構成の見直しを実施するとともに、生涯学習コーディネーターによる専門講座の企画提案について、プレゼンテーション方式による選考会を実施することにより、企画提案に対する審査の公平性・透明性を高めた。

ウ 合同開講式・公開講座の実施（平成 23 年度～）

新たな「学びの場」の提供とともに、「学ぶ仲間」同士のさらなる交流機会の創出を図るため、合同開講式・公開講座を開催した。

エ 専門講座コースの見直し（平成 23 年度～）

「うつのみや地域教育プラン」に定める地域教育の推進を図るため、人と人とのつながりに重きを置いた「コミュニケーション学コース」を実施した。

オ 生涯学習コーディネーターの育成機会の創出（平成 23 年度～）

市民大学専門講座において生涯学習コーディネーターが司会進行等を行うほか、講座開始前に講師・企画者が「学習のポイント」を共通認識することで、育成した生涯学習コーディネーターのさらなるスキルアップを図ることとした。

カ 円滑な企画運営の推進（平成 23 年度～）

事務局と生涯学習コーディネーターが相互に協力しながら、生涯学習コーディネーターがより自立した活動が可能となるよう役割分担を明確化した。

また、講座企画者に専門講座企画運営費を助成することとし、企画者が講師との打合せや連絡調整等を円滑に実施できるようにした。

(2) 平成 25 年度事業における取組み

ア 「宇都宮市民大学 20 周年記念講演会」の実施

市民大学の開学から 20 周年を迎える節目の年であったことから、市民大学受講者のさらなる学習意欲の高揚とともに、市民大学事業を広く周知することによる市民への生涯学習の啓発と、受講者拡大を目的に、記念式典と記念講演会を実施した。

（評価）

資料 1 のとおり 《1 - (4) - ウ》参照

イ 講座企画運営費の早期助成

講座企画運営費について、これまで講座実施年度に運営費を助成していたが、講座企画選考通過後から円滑に企画者が講座運営の準備を行えるよう、講座実施の前年度から運営費を助成することとした。

これにより、企画者が速やかに講師と打ち合わせを行うことが可能となり、日程

調整や講座内容の検討など、円滑な講座企画運営に寄与している。

(3) これまでの取組みを踏まえた現状

平成20年度に策定した本市の生涯学習推進計画である「うつのみや地域教育プラン」に掲げる「地域で活躍できる人材の育成と活用促進」を図るため、平成22年度に、市民大学の企画講座を中心に行っていた生涯学習ボランティアと生涯学習センター講座の企画運営を中心に行っていた生涯学習コーディネーターの一本化を図るとともに、平成23年度には地域コミュニティの再生を念頭に「人と人とのつながり」に重きを置いた「コミュニケーション学コース」を創設するなど、「地域教育の推進」に向け、市民大学はその舵を大きく切ったところである。

現在、多くの生涯学習コーディネーターが市民大学講座の企画運営に携わるとともに、「コミュニケーション学コース」については、受講者から高い評価を得ている。

更に、生涯学習コーディネーターが支援することにより、受講者同士が学習サークルを立ち上げるなど、市民大学を一つの契機として、更に学びを深める事例や、受講者が生涯学習コーディネーターを希望するなど、「地域で活躍できる人づくり」の推進に向けた取組みが着実に浸透してきている。

2 平成26年度市民大学の実施について

(1) 開催方針

高度で専門的な学習ニーズに応える市民大学は、平成22年度以降、「学んだことを地域で生かし、地域で活躍できる人づくり」を目的の一つとして付加し、事業を展開してきた。その結果、受講者間における、いわゆる「学縁」が形成され、更なる主体的な活動に結びついた事例が見られるなど、一定の効果があつたものと評価できる。

また、市内に18ある生涯学習センターや人材かがやきセンターにおいても、様々な「学び」を提供しており、年々充実を見せている。

住民に身近な社会教育施設である、各生涯学習センターにおいては、「生活課題・地域課題の解決に向けた学びの提供」に重点的に取り組んでおり、地域教育の推進拠点である、人材かがやきセンターにおいては、顕在化してきた社会的課題に対応した講座や市内全域を対象とした人材育成講座、生涯学習センターのモデルとなる先導的講座の企画・実施など、その時々々の社会情勢などにより変化する時事的なテーマに柔軟に対応し、「地域教育の推進」において中核的役割を担っている。

一方、「市民大学」、「生涯学習センター主催講座」、「人材かがやきセンター主催講座」それぞれにおいて、「地域で活躍できる人づくり」を意識した講座に重点が置かれている状況となっている。

さらに、生涯学習センターにおいては「地域で活躍できる人づくり」が喫緊の課題となっているため、生涯学習・社会教育の役割の一つである個人の要望に基づく趣味・教養などの講座が極めて少ない状況にある。

このような状況を踏まえ、平成26年度から市民大学においては、「生涯学習センター主催講座」、「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、これまで同様、高等教育機関との連携により高度で専門的な学習ニーズに応えるとともに、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、「個人の要望に基づく趣味・教養などの学びの提供」に重点的に取り組んでいく。

(2) 専門講座の実施方法等

専門講座における、コースの設定及び講座実施数については、平成25年度同様の4コース12講座とする。

ア コース設定（4コース）

(7) ふるさと地域学コース

地域の歴史や文化財、産業、自然、民俗など、地域の特質から宇都宮を知り、今後のまちづくりに生かしていくための講座

(4) 今を読み解く現代社会コース

社会経済環境や価値観がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き、暮らしに生かしていく知恵を学ぶ講座

(4) 暮らしを彩る教養文化コース

豊かな人間性を培う深い教養を身につけるため、芸術・文化のほか、先進技術や科学、物理など、実践的で楽しい学びから仲間作りを促進する講座

(1) コミュニケーション学コース

地域コミュニティの再生を図るため、良い人間関係を培うスキルを論理的・体験的に学び、豊かで円滑な地域社会の構築を促進する講座

イ 講座実施数（12講座予定）

- ・ 前期（5～7月）：6講座，後期（10～12月）：6講座
- ・ 生涯学習コーディネーター企画：9講座，大学連携講座：2講座，事務局企画講座：1講座

ウ 選考方法

(7) 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため、専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。

(4) 生涯学習コーディネーターの選考会への参加

生涯学習コーディネーターのスキルアップとともに、講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として、選考会の参加を実施する。

エ 生涯学習コーディネーターの育成支援

「生涯学習コーディネーター連絡会議」を通して、生涯学習コーディネーターのプレゼンテーション能力や司会進行のための能力、また、ファシリテーション能力などのスキルアップに資する研修会の実施や、習得したことを活かせる機会の付与など、生涯学習コーディネーターの育成支援を行う。

(3) 合同開講式・公開講座の実施について

平成26年度についても、市内の高等教育機関との連携・協力などにより、「合同開講式・公開講座」を実施する。

- ・ 「合同開講式」 専門講座受講者を対象に実施

- ・ 「公開講座」 専門講座受講者及び一般市民を対象に開催

【実績】

平成23年度	前期	宇都宮大学 峰キャンパス
	後期	宇都宮市立南図書館
平成24年度	前期	宇都宮共和大学 長坂キャンパス
	後期	帝京大学 宇都宮キャンパス
平成25年度	前期	宇都宮短期大学 長坂キャンパス（20周年記念講演会扱い）
	後期	宇都宮大学 峰キャンパス

【参考】担当大学一覧（予定）

平成25年度	平成26年度	平成27年度
宇都宮短期大学	作新学院大学	宇都宮共和大学
宇都宮大学	文星芸術大学	帝京大学

3 今後のスケジュール（予定）

8月下旬	第2回生涯学習コーディネーター連絡会議 （平成26年度市民大学専門講座企画運営募集説明）
11月～	企画講座募集締め切り・書類審査
11月下旬	講座企画運営選考委員会（プレゼンテーション審査）
12月上旬	第2回宇都宮市民大学運営協議会（平成26年度企画の決定）